

証券コード：6469



株式会社 **放電精密** 加工研究所

2025年2月期 第2四半期(中間期)
決算説明会資料

2024年10月16日

■ 本資料のポイント	…P.3	■ 2025年2月期通期業績予想	…P.13～
■ 2025年2月期第2四半期(中間期)決算概要		■ 中期経営計画2027における施策の進捗	…P.22～
□ 2025年2月期第2四半期(中間期) 決算概要 (連結)	…P. 4		
□ 2025年2月期第2四半期(中間期) 利益の変動要因	…P. 5		
□ 事業概要	…P. 6		
□ 2025年2月期第2四半期(中間期) セグメント別概要	…P. 7～		
□ 連結貸借対照表とCFの状況	…P. 11		
□ 2025年2月期 設備投資・償却費・研究開発費	…P.12		

- **別紙① : 2025年2月期第2四半期(中間期)決算補足資料**
- **別紙② : 企業概要について**

2025年2月期 第2四半期(中間期) 連結業績の総括

- ◆ **売上高5,952百万円 前年同期比3.6%増**
 - 放電加工・表面処理が増収も、金型と機械装置等が減収
- ◆ **営業利益166百万円 前年同期は33百万円の営業損失**
 - 価格改定による効果や放電加工・表面処理の収益改善が進み、大幅な増益
- ◆ **親会社株主に帰属する中間純利益80百万円**

2025年2月期 通期連結業績予想

- ◆ **2024年10月3日、通期連結業績予想を修正**
 - 2024年4月9日公表の業績予想に対し減収も、全社的なコスト削減策や価格改定により増益見通し

中期経営計画2027 における施策の進捗

- ◆ **中期経営計画2027達成に向けた活動の進捗**
 - 収益性や成長性を重視した施策を推進中

2025年2月期第2四半期(中間期) 決算概要 (連結)

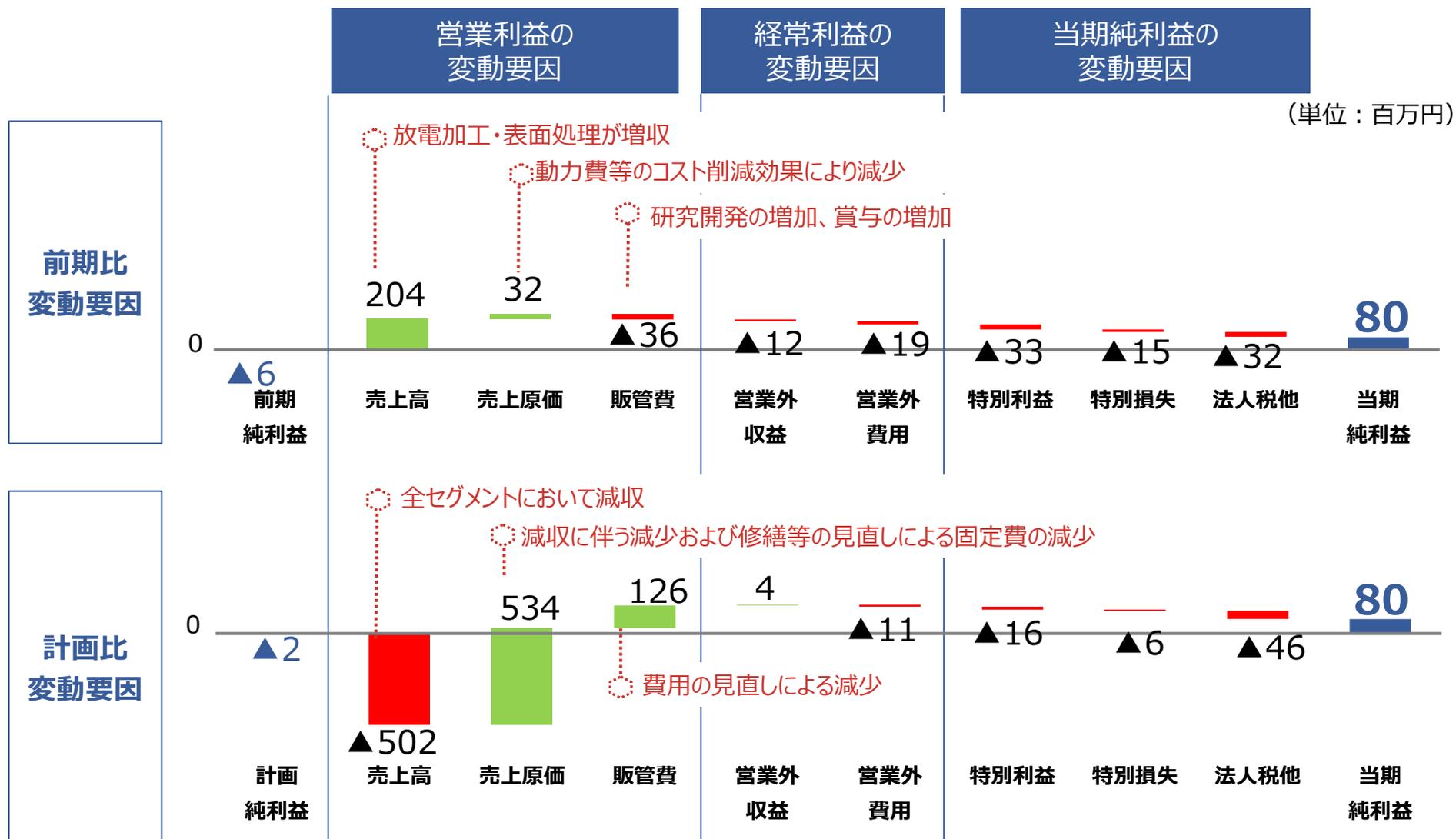


(単位：百万円)

	24年2月期 第2Q実績	25年2月期 第2Q計画	25年2月期 第2Q実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	5,747	6,454	5,952	+204	▲502
売上原価	4,656	5,159	4,624	▲32	▲534
売上総利益	1,091	1,295	1,328	+236	+32
販管費	1,125	1,288	1,161	+36	▲126
営業利益	▲33	7	166	+200	+159
営業外損益	2	▲22	▲28	▲31	▲6
経常利益	▲31	▲15	137	+169	+153
特別損益	36	10	▲13	▲49	▲23
税金等調整前 中間純利益	5	▲5	124	+119	+130
法人税等	2	▲1	45	+43	+46
中間純利益	3	▲3	79	+76	+83
非支配株主に帰属する 中間純利益	9	▲0	▲1	▲10	▲0
親会社株主に帰属する 中間純利益	▲6	▲2	80	+86	+83

※25年2月期計画：24年4月9日公表 業績予想

2025年2月期第2四半期(中間期) 利益の変動要因



※計画比：24年4月9日公表 業績予想

※純利益：親会社株主に帰属する中間純利益
 ※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する中間純利益

放電加工・表面処理

- 航空・宇宙 ~航空機エンジン部品
- 交通・輸送 ~自動車表面処理部品
- 環境・エネルギー ~ガスタービン部品



金

型

- 住宅 ~アルミ押出用金型
- 交通・輸送 ~セラミックスハニカム押出用金型



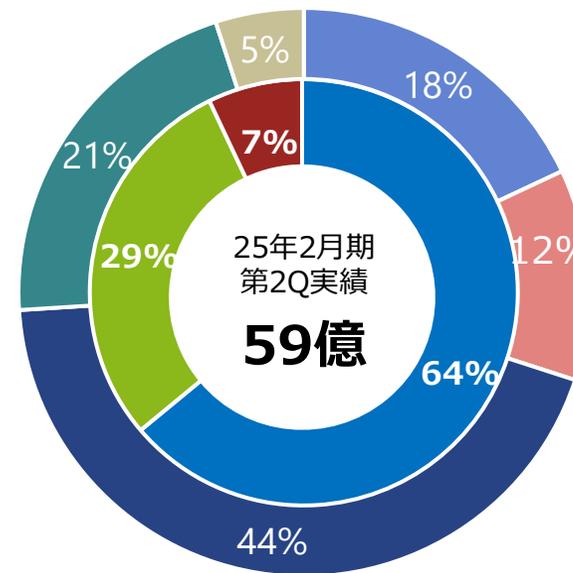
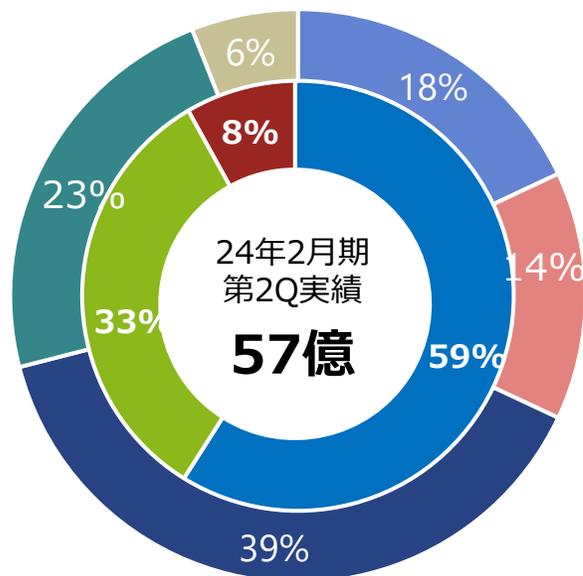
機械装置等

- 機械設備 ~プレス機・プレス付帯設備
- 交通・輸送 ~自動車関連プレス部品



セグメント別/事業分野別売上構成比率 (連結)

セグメント別 ■ 放電加工・表面処理 ■ 金型 ■ 機械装置等



事業分野別 ■ 航空・宇宙 ■ 交通・輸送 ■ 環境・エネルギー ■ 住宅 ■ 機械設備

2025年2月期第2四半期(中間期)セグメント別概要



(単位：百万円)

		24年2月期 第2Q実績	25年2月期 第2Q計画※	25年2月期 第2Q実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	放電加工・表面処理	3,390	4,031	3,826	+436	▲204
	航空・宇宙	1,015	1,270	1,062	+47	▲207
	交通・輸送	129	162	161	+31	▲0
	環境・エネルギー	2,245	2,599	2,602	+357	+3
営業利益		223	323	517	+294	+194
売上高	金型	1,873	1,812	1,700	▲172	▲111
	住宅	1,333	1,263	1,243	▲89	▲19
	交通・輸送	540	549	457	▲82	▲91
営業利益		279	246	184	▲95	▲62
売上高	機械装置等	484	610	424	▲59	▲185
	機械設備	368	460	290	▲78	▲169
	交通・輸送	115	149	134	+18	▲15
営業利益		▲48	62	▲4	+44	▲66
全社費用		▲487	▲624	▲531	+43	▲93
全社	売上高	5,747	6,454	5,952	+204	▲502
	営業利益	▲33	7	166	+200	+159

※24年2月期第2Q計画：24年4月9日公表業績予想

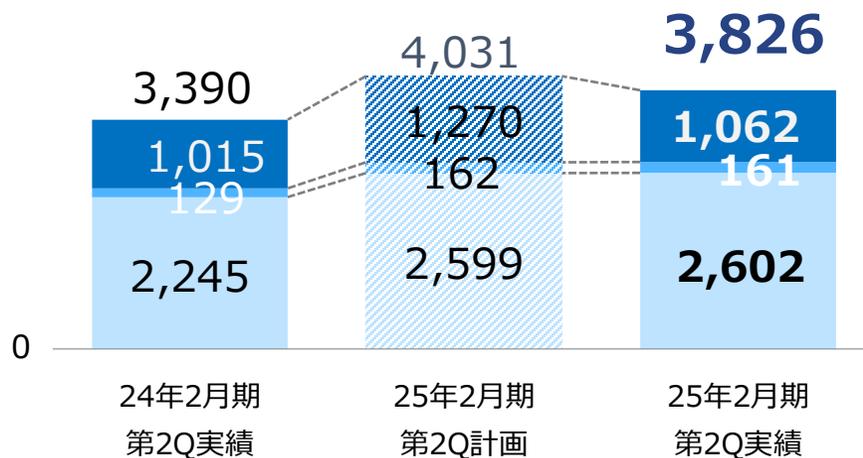
セグメント別詳細：放電加工・表面処理



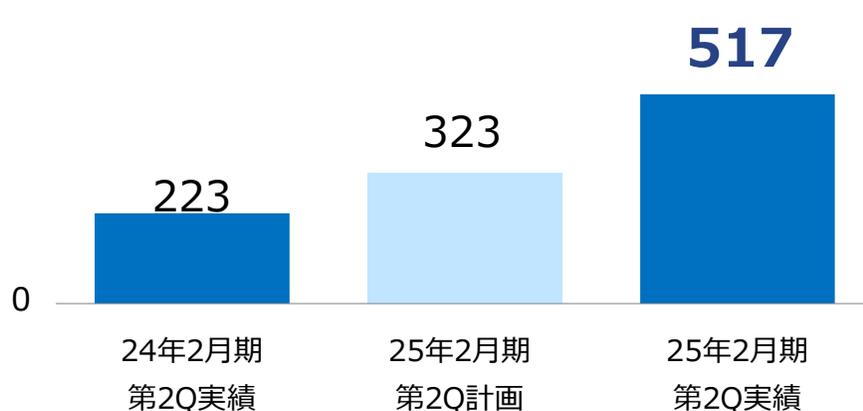
(単位：百万円)

■ 環境・エネルギー ■ 交通・輸送 ■ 航空・宇宙

売上高



営業利益



前期比 増収・増益

売上高：3,390 ⇒ **3,826** (+436)

営業利益：223 ⇒ **517** (+294)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 航空・宇宙 (↑ / ↓)

- ◇前期比は、防衛装備品を含む航空宇宙関連部品の需要増加により増収。
- ◇計画比は、材料支給の停滞等サプライチェーンの遅れにより減収。

□ 交通・輸送 (↑ / ↓)

- ◇前期比は、自動車関連の表面処理部品が価格改定により増収。
- ◇計画比は、おおむね計画通りに進捗。

□ 環境・エネルギー (↑ / ↑)

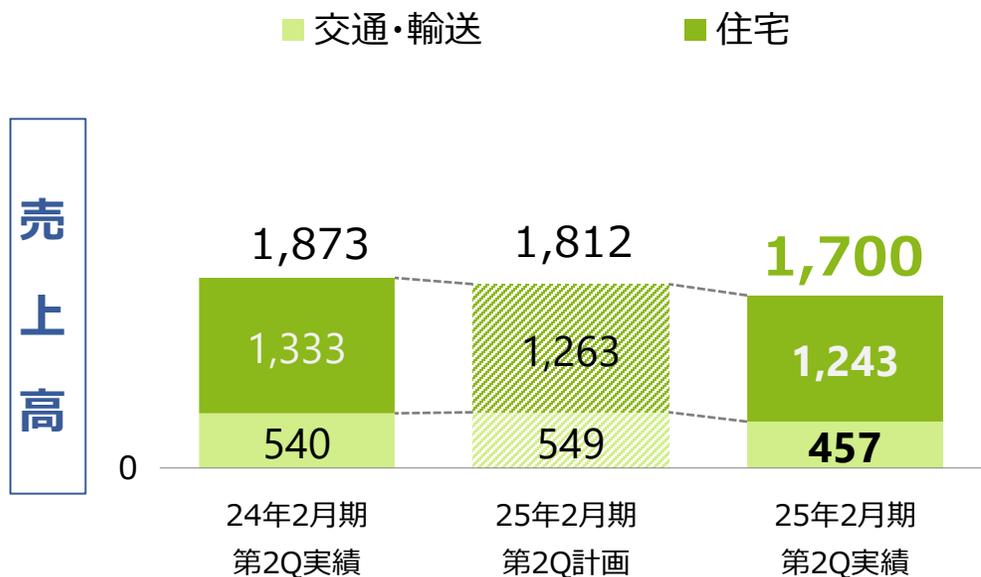
- ◇前期比は、電力需要の増加を背景にガスタービン部品の国内および海外向け案件が増加し増収。
- ◇計画比は、おおむね計画通りに進捗。

営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↑ / ↑)

- ◇前期比は、生産量の回復や価格改定による採算性の改善により増益。
- ◇計画比は、修繕等の見直しなど固定費を圧縮し増益。

(単位：百万円)



前期比 減収・減益

売上高： 1,873 ⇒ **1,700** (▲172)

営業利益： 279 ⇒ **184** (▲95)

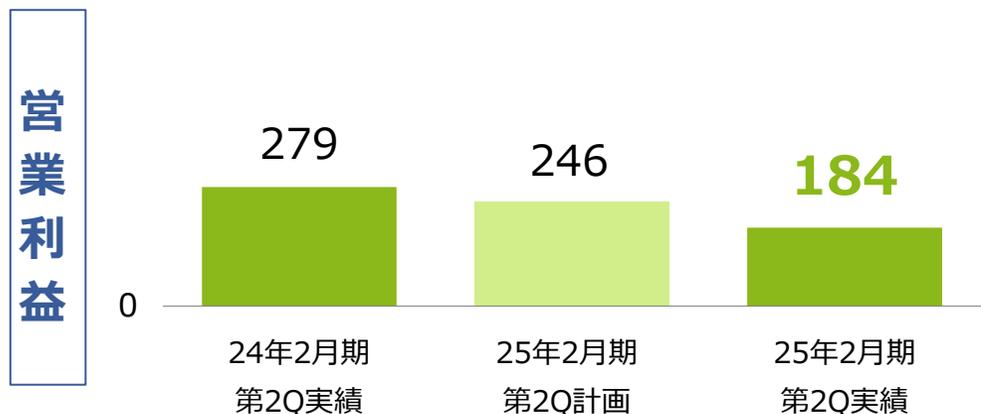
売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□住宅(↓ / ↓)

- ◇前期比は、価格改定の実施も国内向けアルミ押出用金型および海外子会社のアルミ押出用金型の受注が減少し、減収。
- ◇計画比は、非住宅用金型が減少し、減収。

□交通・輸送(↓ / ↓)

- ◇前期比・計画比ともに、セラミックスハニカム押出用金型が中国市場の鈍化および製品構成の変化により減収。

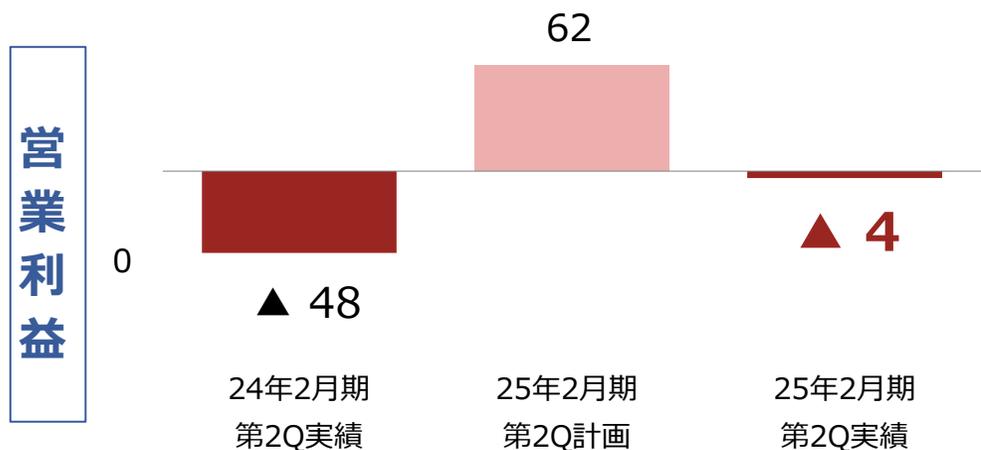
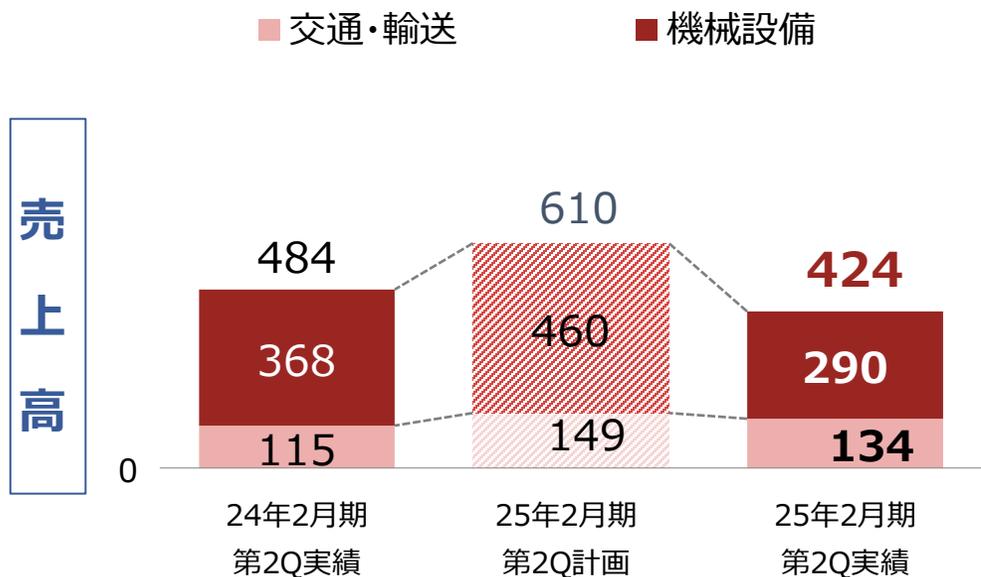


営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↓ / ↓)

- ◇前期比・計画比ともに減収による減益。

(単位：百万円)



前期比 減収・増益

売上高： 484 ⇒ 424 (▲59)
 営業利益： ▲48 ⇒ ▲4 (+44)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 機械設備 (↓ / ↓)

◇ 前期比・計画比ともに、大型プレス機の販売の落ち込みと自動車業界の低迷に伴うプレス付帯設備の需要が減少し減収。

□ 交通・輸送 (↑ / ↓)

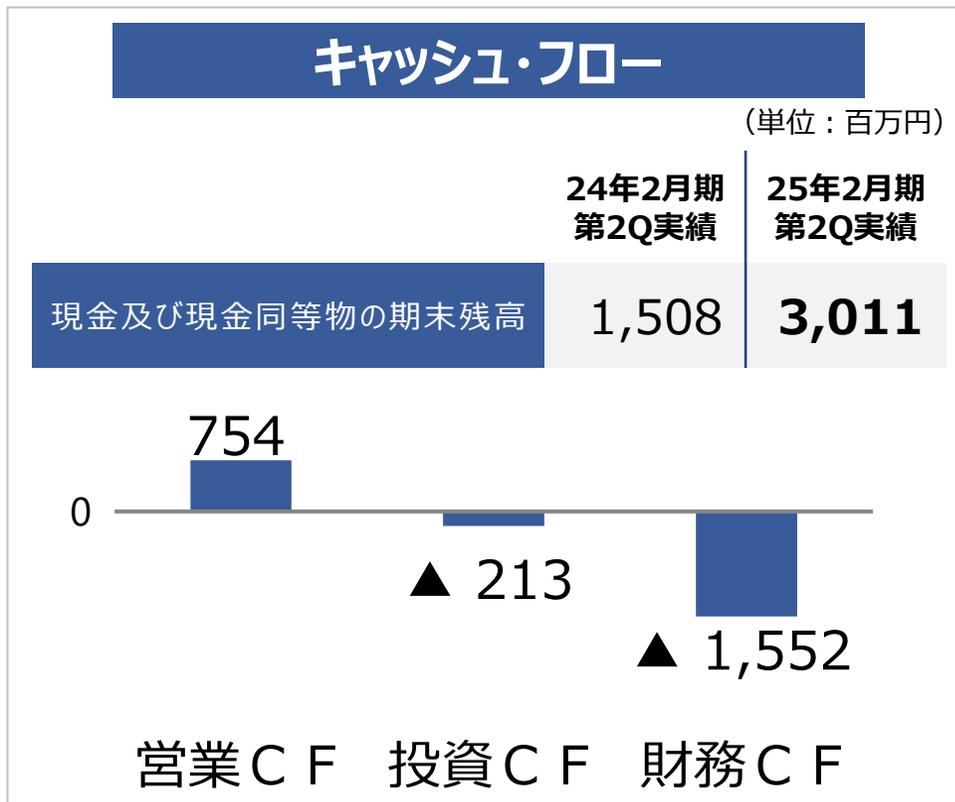
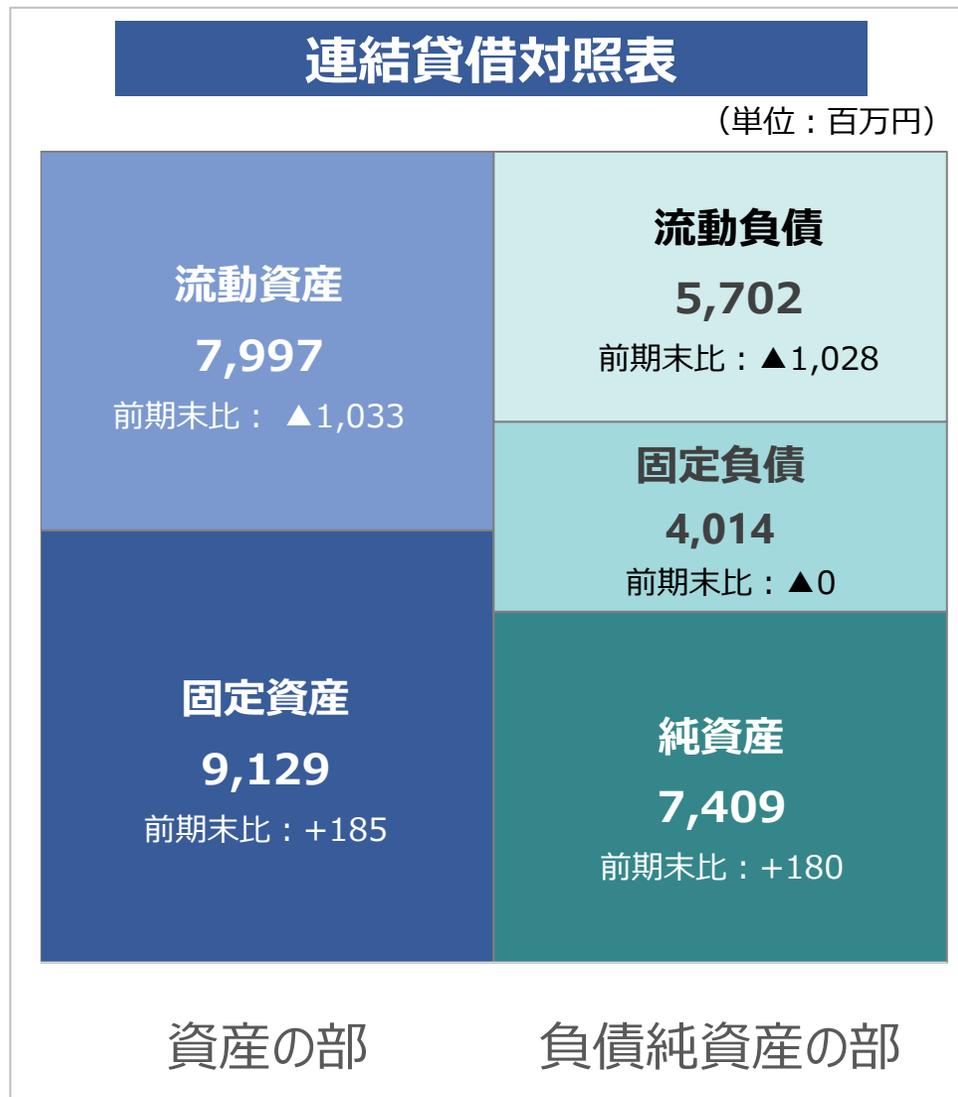
◇ 前期比は、自動車関連プレス部品の価格改定に伴う増収。
 ◇ 計画比は、自動車関連プレス部品が想定を下回る受注により減収。

営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↑ / ↓)

◇ 前期比は、価格改定および固定費の圧縮により増益。
 ◇ 計画比は、固定費圧縮も、減収により減益。

短期借入金の返済により財務改善が進む



設備投資 / 減価償却費

(単位：百万円)

	24年2月期 第2Q実績	25年2月期 第2Q実績	25年2月期 計画
設備投資	555	444	1,100
減価償却費	320	338	700

2025年2月期 主な投資案件

- ガスタービン部品、航空機エンジン部品、防衛装備品の生産体制再整備
- その他事業の定期設備更新

研究開発費

(単位：百万円)

	24年2月期 第2Q実績	25年2月期 第2Q実績	25年2月期 計画
研究開発費	10	23	71

2025年2月期 主な研究開発案件

- 自社リソースを活用した自動化・省人化の推進
- 新たな要素技術の導入・新工法の開発
- 混合溶融機の性能向上および混合溶融技術の素材を活用した各種成型技術の検証



2025年2月期 通期連結業績予想

下期業績予想の見直しの前提条件

セグメント	外部環境 ↑ 増収要因 ↓ 減収要因	主な施策と進捗状況
放電加工 ・ 表面処理	<p>↑</p> <p>エネルギー分野は、AI普及を背景にデータセンターの新增設に伴う電力需要が旺盛</p> <p>航空・宇宙分野は、サプライチェーン立て直しによる調整局面から回復傾向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスタービン部品・航空機エンジン部品・防衛装備品は、足元の増産への対応
金型	<p>↓</p> <p>住宅分野は、人手不足や建材高騰の長期化により回復が見込みにくい状況が当面継続</p> <p>交通・輸送分野は、ハイブリッド車は一定量の需要継続も、中国の市場回復は限定的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ押出用金型とセラミックスハニカム押出用金型は、合理化継続および他分野へ営業強化
機械装置等	<p>↓</p> <p>ものづくり現場の自動化・省人化需要はあるものの、物価高により投資には慎重さも</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーボプレス機は、受注案件の期中販売と受注残の積上げ

2024年4月9日公表に対し通期連結業績予想を修正、配当予想は変更なし

(単位：百万円)

	24年2月期 実績	24年2月期 2024年4月9日公表 前回発表予想	25年2月期 2024年10月3日公表 今回修正予想	今回予想 前期差	連結業績予想 増減額
売上高	12,160	13,566	12,956	+795	▲609
営業利益	230	368	391	+161	+23
経常利益	169	329	347	+177	+17
親会社株主に帰属する 当期純利益	231	222	227	▲4	+4

1株あたり配当金（年間）

7円

2025年2月期セグメント別業績予想



(単位：百万円)

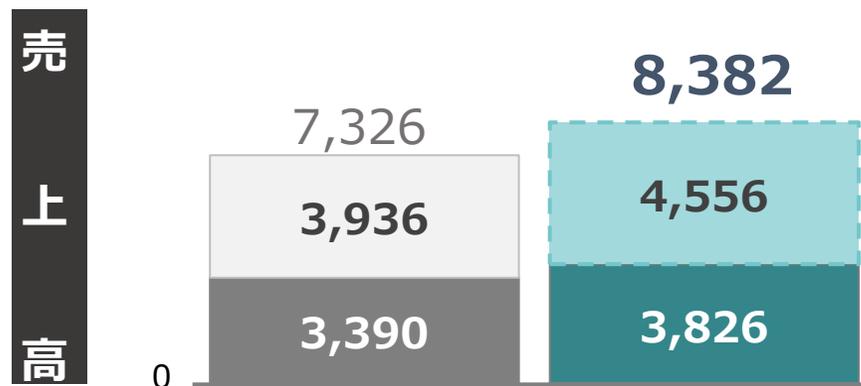
		24年2月期 通期実績	25年2月期 通期業績見通し	前期差 増減	25年2月期 上期実績	25年2月期 下期見通し	上下 増減
売上高	放電加工・表面处理	7,326	8,382	+1,056	3,826	4,556	+729
	航空・宇宙	2,272	2,676	+403	1,062	1,613	+550
	交通・輸送	291	314	+23	161	153	▲7
	環境・エネルギー	4,763	5,391	+628	2,602	2,788	+186
営業利益		735	1,078	+343	517	560	+42
売上高	金型	3,600	3,399	▲200	1,700	1,698	▲2
	住宅	2,517	2,466	▲51	1,243	1,223	▲19
	交通・輸送	1,082	932	▲149	457	474	+17
営業利益		452	397	▲55	184	212	+28
売上高	機械装置等	1,233	1,174	▲59	424	749	+325
	機械設備	918	904	▲13	290	614	+323
	交通・輸送	315	269	▲45	134	135	+1
営業利益		62	123	+61	▲4	128	+132
全社費用		▲1,020	▲1,207	▲186	▲531	▲676	▲145
全社	売上高	12,160	12,956	+795	5,952	7,004	+1,051
	営業利益	230	391	+161	166	225	+58

セグメント別詳細：放電加工・表面処理

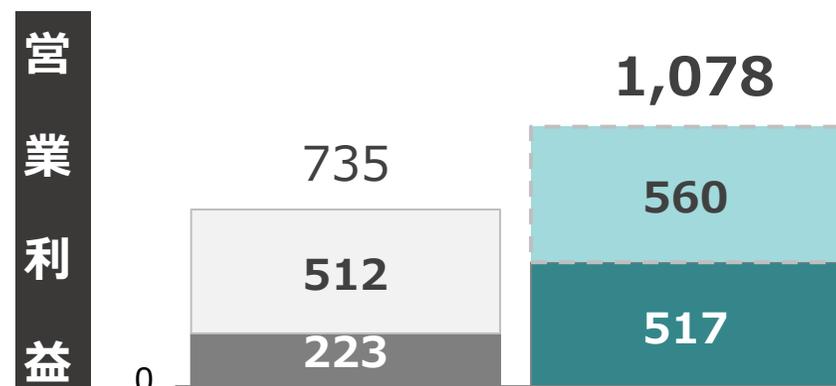


■ 2024年2月期 上期実績 □ 2024年2月期 下期実績 ■ 2025年2月期 上期実績 ■ 2025年2月期 下期見通し (単位：百万円)

2024年2月期 通期実績 2025年2月期 通期見通し



2024年2月期 通期実績 2025年2月期 通期見通し



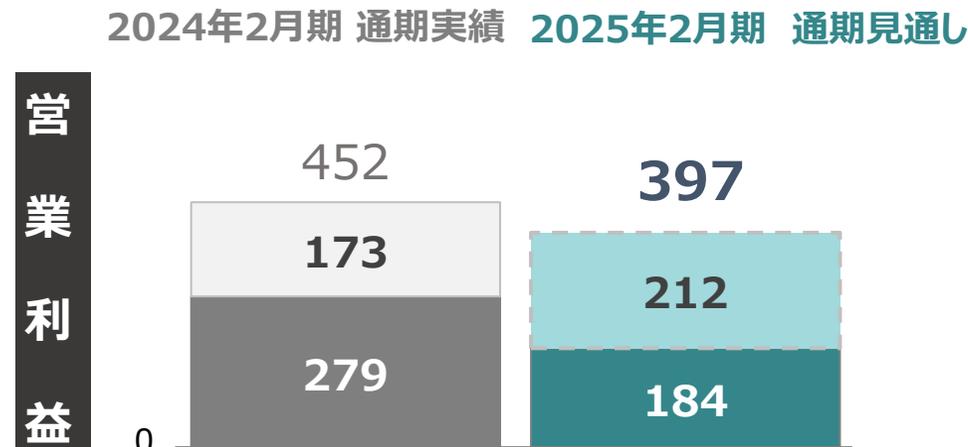
売上高下期見通し（上期対比）

- (↑) 航空・宇宙
 - ◇ 航空機エンジン部品は、サプライチェーンの正常化、新規アイテムの生産が本格化、一部アイテムの価格改定により増収。防衛装備品も増加。
- (↓) 交通・輸送
 - ◇ 自動車表面処理部品は、物流需要増加に伴うトラック産業の需要は継続も、在庫調整の影響により微減。
- (↑) 環境・エネルギー
 - ◇ ガスタービン部品は、電力需要が継続し増収。
 - ◇ 遠心圧縮機部品は、石油・ガス産業の精製・輸送需要の増加を背景に大型品や工程数の多いアイテムの受注が増加、下期後半からの売上を見込み、減収。
 - ◇ 環境事業は、プラスチック廃材を再資源化する装置および付属設備の販売により増収。

営業利益下期見通し（上期対比）

- (↑)
 - ◇ 増収や価格改定の下期実施分が加わり収益性の改善が進む。一方、ガスタービン部品と航空機エンジン部品が設備投資を実施するため、微増。

2024年2月期 上期実績
 2024年2月期 下期実績
 2025年2月期 上期実績
 2025年2月期 下期見通し
 (単位：百万円)



売上高下期見通し（上期対比）

- (↓)住宅
 - ◇国内向けアルミ押出用金型は、非住宅用がアルミ部材メーカーの工場新增設需要を取り込むものの、住宅向けは回復が見込みにくい状況が継続し、減収。

- (↑)交通・輸送
 - ◇セラミックスハニカム押出用金型は、価格改定および大型品の受注が回復し増収。

営業利益下期見通し（上期対比）

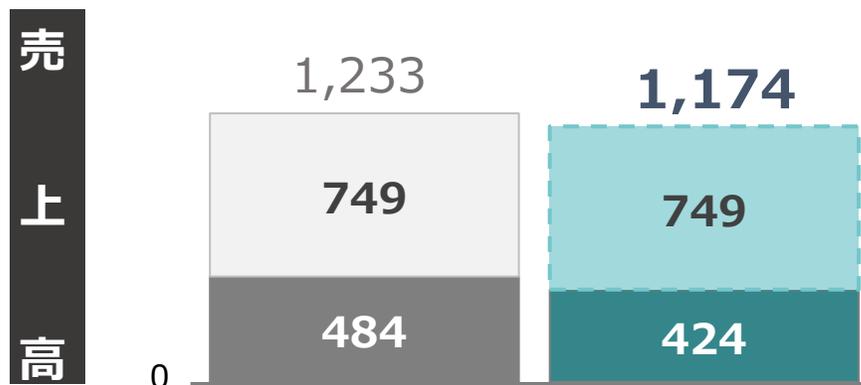
- (↑)
 - ◇価格改定や付加価値の高いアイテムの生産で収益性が改善し増益。

セグメント別詳細：機械装置等



2024年2月期 上期実績
 2024年2月期 下期実績
 2025年2月期 上期実績
 2025年2月期 下期見通し
 (単位：百万円)

2024年2月期 通期実績 2025年2月期 通期見通し



売上高下期見通し（上期対比）

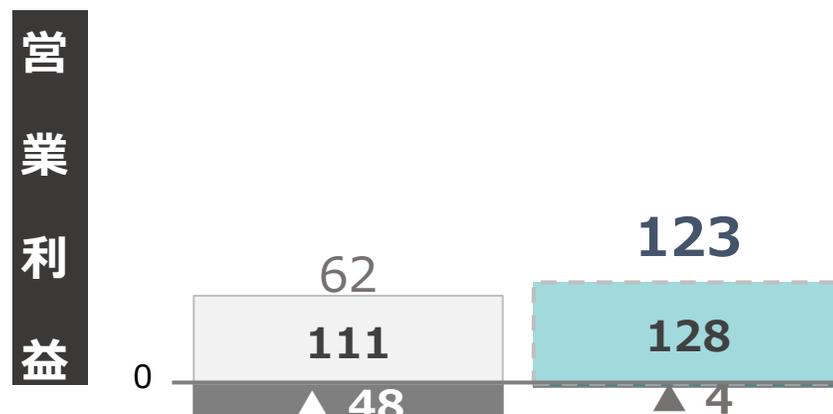
■(↑)機械設備

- ◇機械設備関連は、自動車部品およびフィルム向けのプレス機販売で増収。
- ◇シェアリングサービスは量産試作の需要が一定量を継続。
- ◇プレス付帯設備も自動車産業の設備投資需要により、増収。

■(↑)交通・輸送

- ◇自動車関連プレス部品は、おおむね上期並みに推移。

2024年2月期 通期実績 2025年2月期 通期見通し



営業利益下期見通し（上期対比）

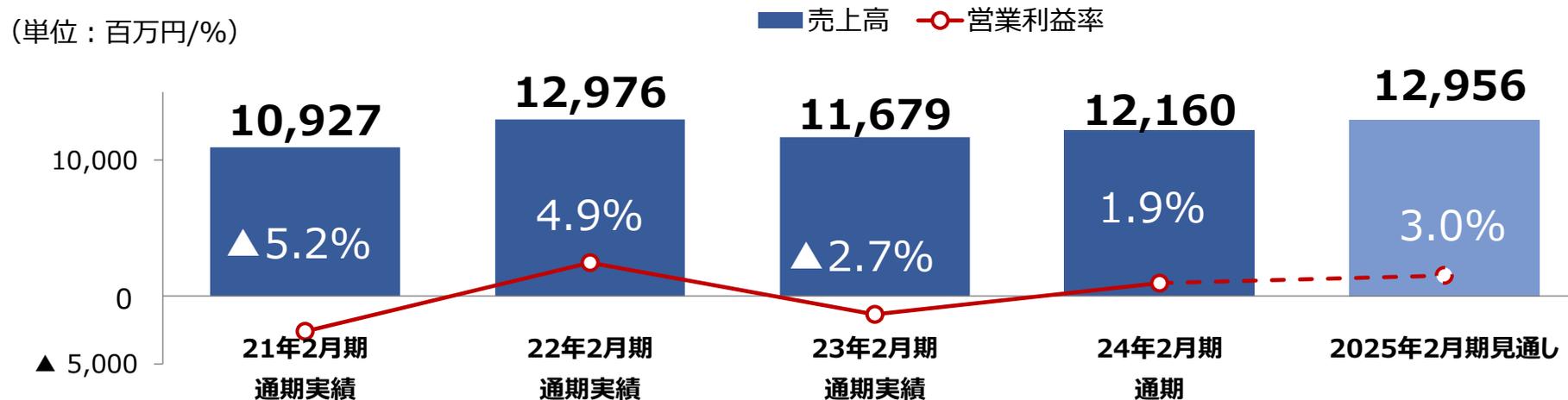
■(↑)

- ◇プレス機販売やプレス付帯設備の増収により増益。

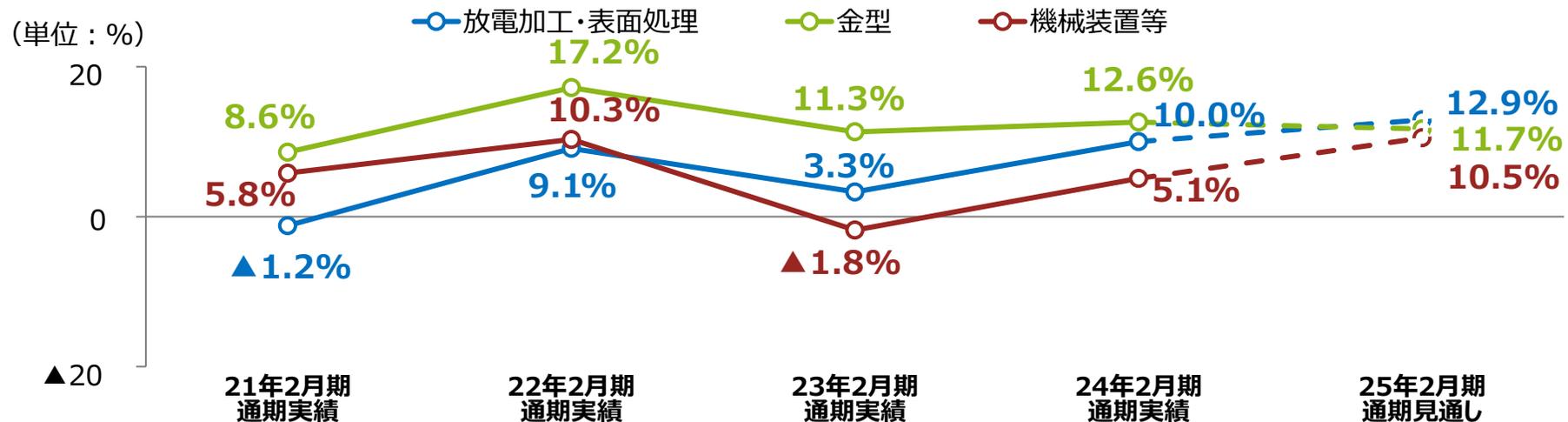
売上高・営業利益率推移



売上高と
営業利益率
推移



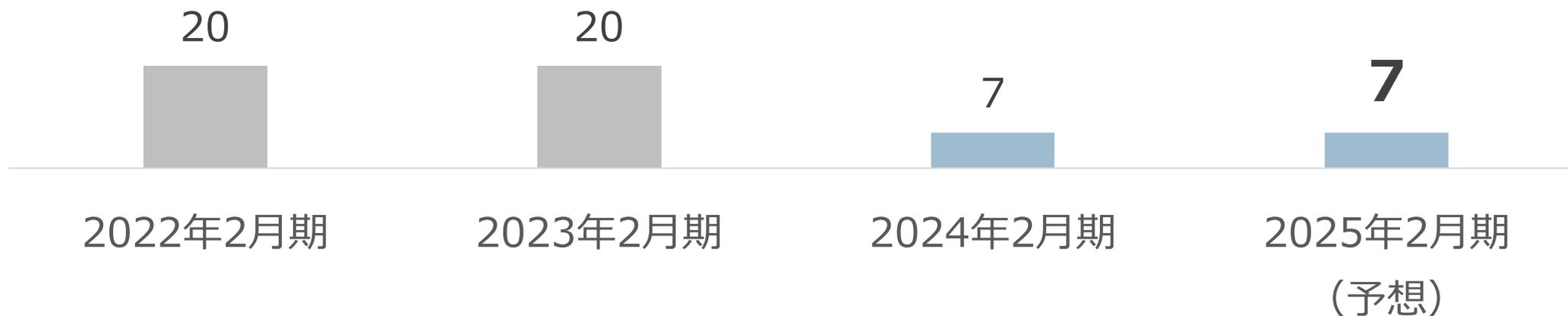
セグメント別
営業利益率
推移

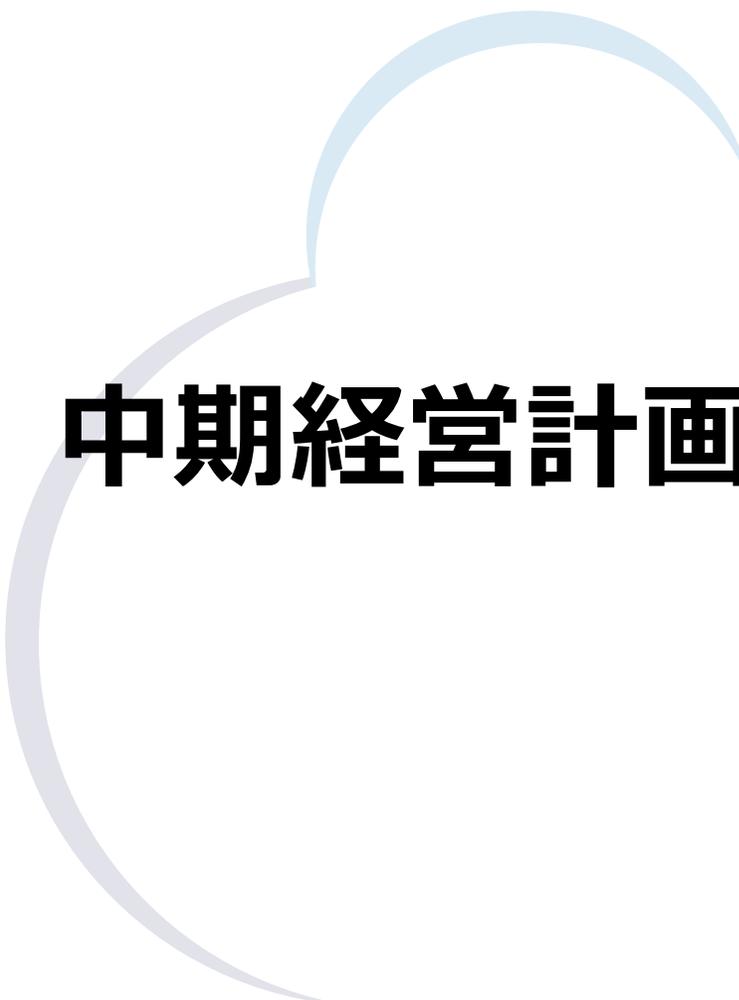


※1. 営業利益率は外部売上で算出しています。 ※2. セグメント営業利益率は本社費等控除前のものになります。

基本方針：安定的かつ継続的な利益還元

配当金（単位：円）





中期経営計画2027における施策の進捗

改革 推進

- 成長への組織改革と人的資本投資の推進および体制の整備

収益 基盤

- 事業ポートフォリオの再設定、リソースの有効活用と効率化を促進
- 標準化と自動化による全社の業務改革を推進

成長 基盤

- 海外展開を拡大し、成長事業の国際競争力を強化
- 長期ビジョンを背景とした技術開発への取り組みを強化

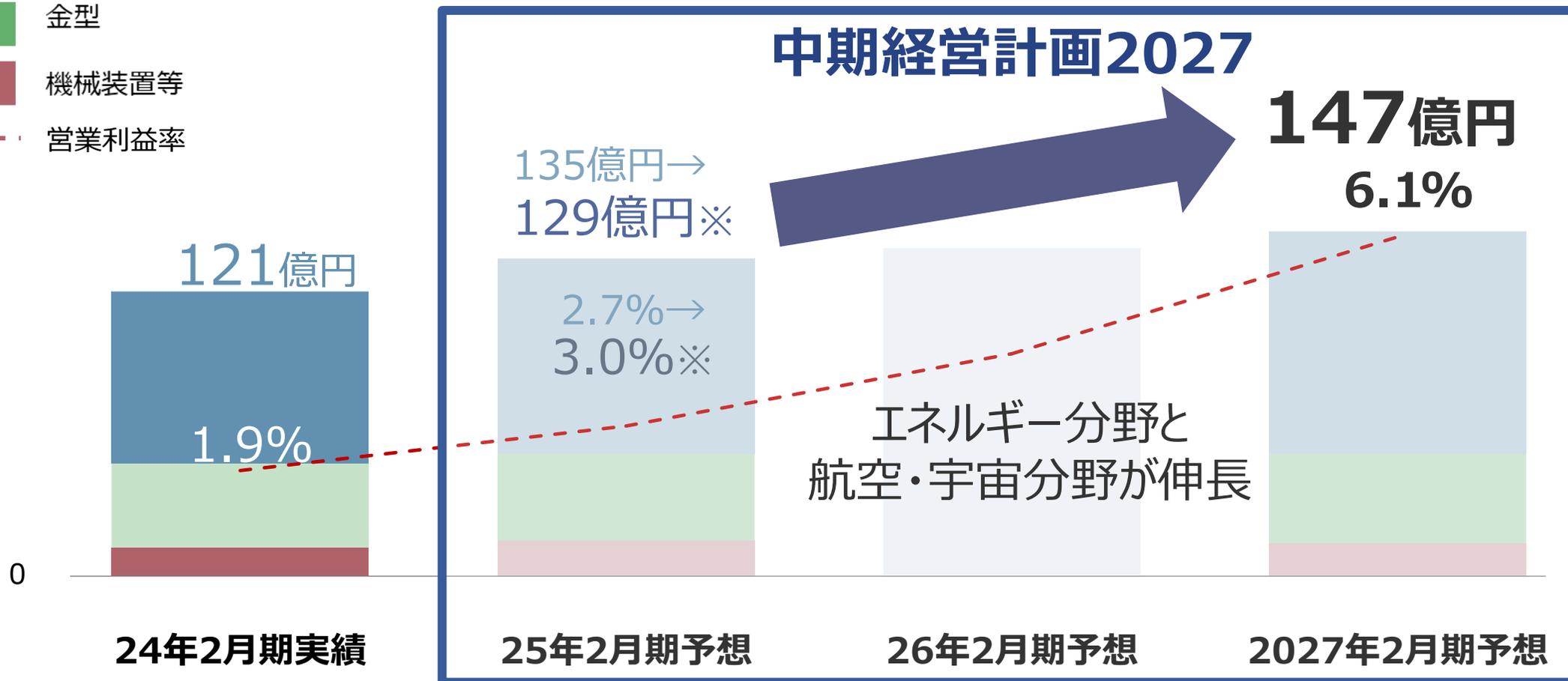
経営 基盤

- ESG経営の体制構築とサステナビリティへの取り組みを推進
- ステークホルダーから安心・信頼される健全経営の推進、相互関係を強化

中期経営計画2027 数値目標



- 放電加工・表面処理
- 金型
- 機械装置等
- 営業利益率



※2025年2月期業績予想を2024年10月3日に修正

事業拡大と収益性の改善により安定収益体質へ

事業機会と収益性

成長事業だが収益性に課題
ガスタービン部品、航空機エンジン部品
自社の強みを活かせる
事業領域へ資源集中



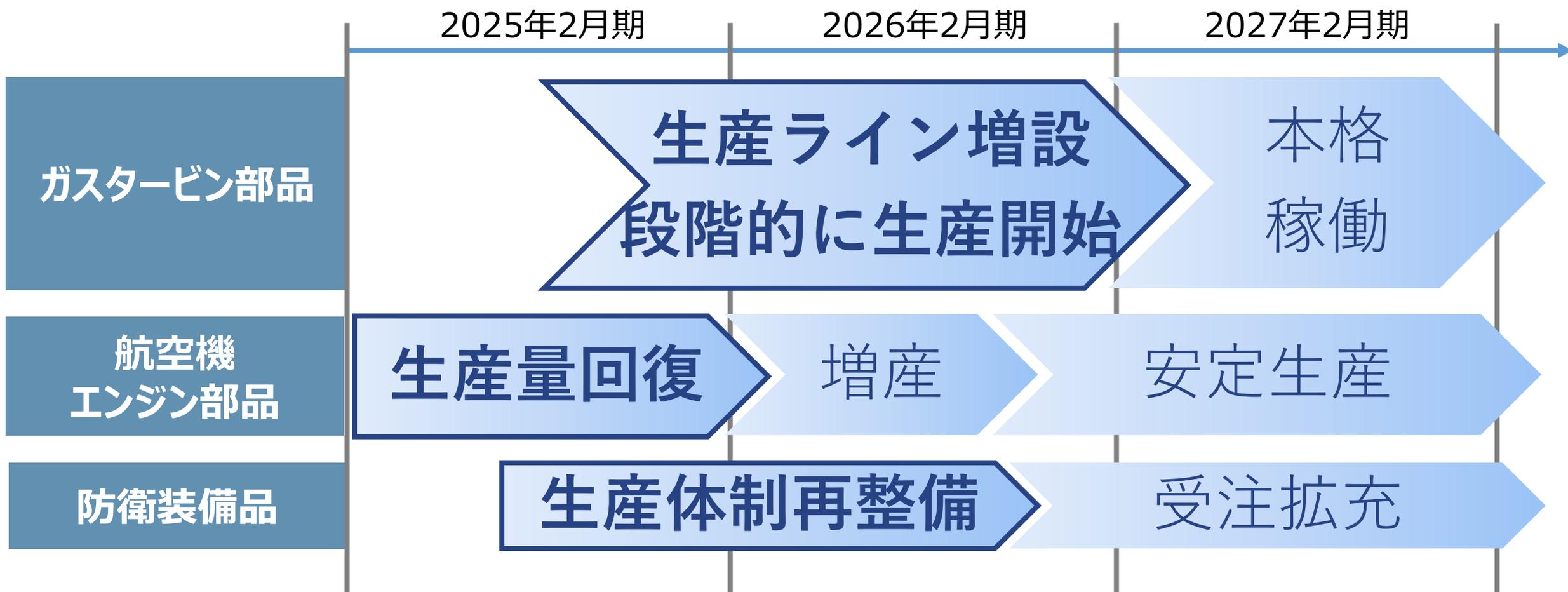
高成長・高収益事業
➤ 顧客深耕（パートナー化）



事業の成長性・収益性に課題
アルミ押出用金型
合理化追求で安定収益に貢献

事業の成長性に課題
セラミックスハニカム押出用金型、プレス機
優位性を向上し新分野で再成長

自社の強みを活かせる事業領域へ資源集中し、高成長事業へ



- 各拠点で再整備を実施
リソースの活用と技術の横断で、需要拡大への早期対応を目指す

ガスタービン部品 生産拠点の拡大

計画の一部の前倒し要請を受け
既存の生産拠点の活用を再検討

2025年4月生産開始予定



名古屋事業所



岡山事業所

航空機エンジン部品 増産に伴う設備増強

2025年2月期下期生産開始予定

防衛装備品

生産対応能力の確認および再構築

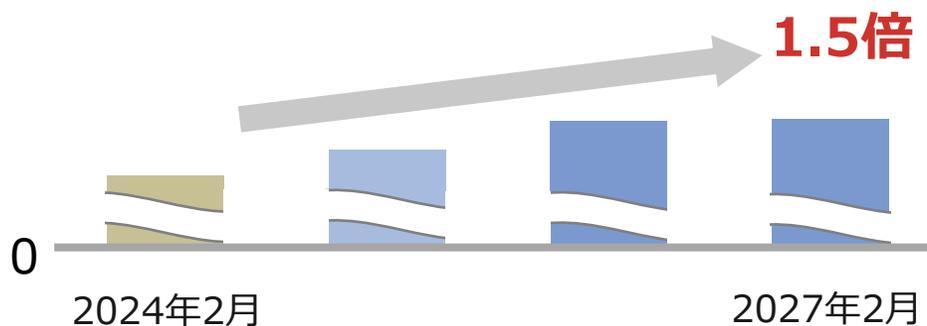
2026年2月期下期生産開始予定

航空・宇宙分野の売上イメージ

中計2024

中計2027

- ✓ 航空機エンジン部品はコロナ前の高い水準を維持、さらに新モデルの増産
- ✓ 防衛装備品の大幅増産
- ✓ 生産量増加への対応および価格改定の推進



目標の前提とした外部環境認識

航空業界の脱炭素化が加速

- 燃費効率の良い機体需要が増加

安全保障意識の高まり

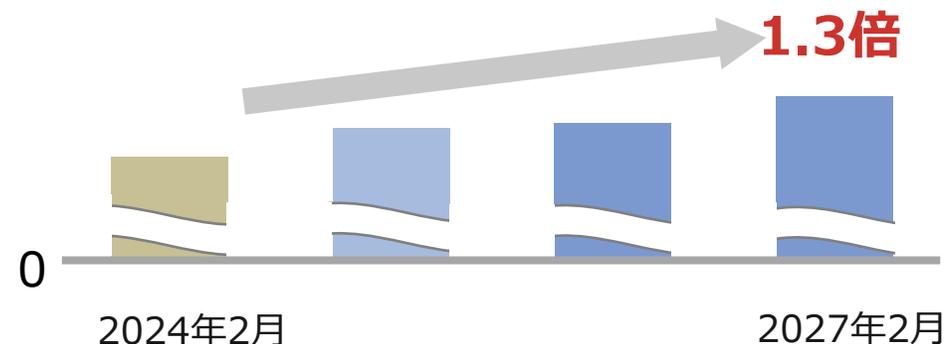
- 防衛産業は、製造・開発費が増加傾向

ガスタービン部品の売上イメージ

中計2024

中計2027

- ✓ ガスタービン部品の大幅な増産
- ✓ 水素アンモニア混焼へ移行後も需要は継続
- ✓ 既存製品の生産と新ライン立上げの両立、コスト管理強化



脱炭素化へ移行する過渡期として需要は継続活況

- 安定供給できる天然ガス発電需要は堅調

新エネルギー開発が加速

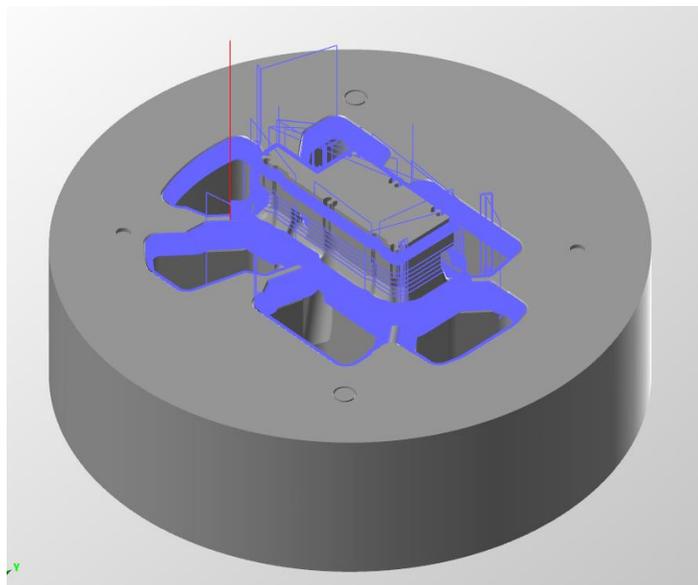
- 水素・アンモニア発電の開発、それに伴い水素生産の開発加速

合理化追求で安定収益および優位性を活かした新分野での技術貢献

アルミ押出用金型

先進的なデジタル技術を活用し工法転換

- ・大幅な工程短縮を実現するCAD/CAM技術を開発中



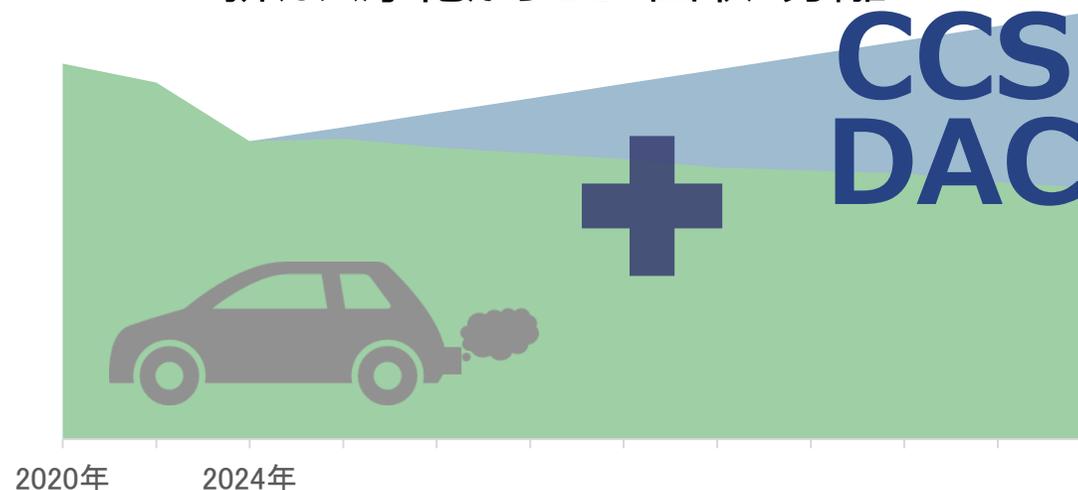
セラミックスハニカム押出用金型

CO₂回収・分離など新たな市場への展開

- ・専門設備の開発と工法の見直しや顧客とともに技術の実証を推進中
- ・設備更新と代替技術導入による生産性向上

当社が目指す事業構造

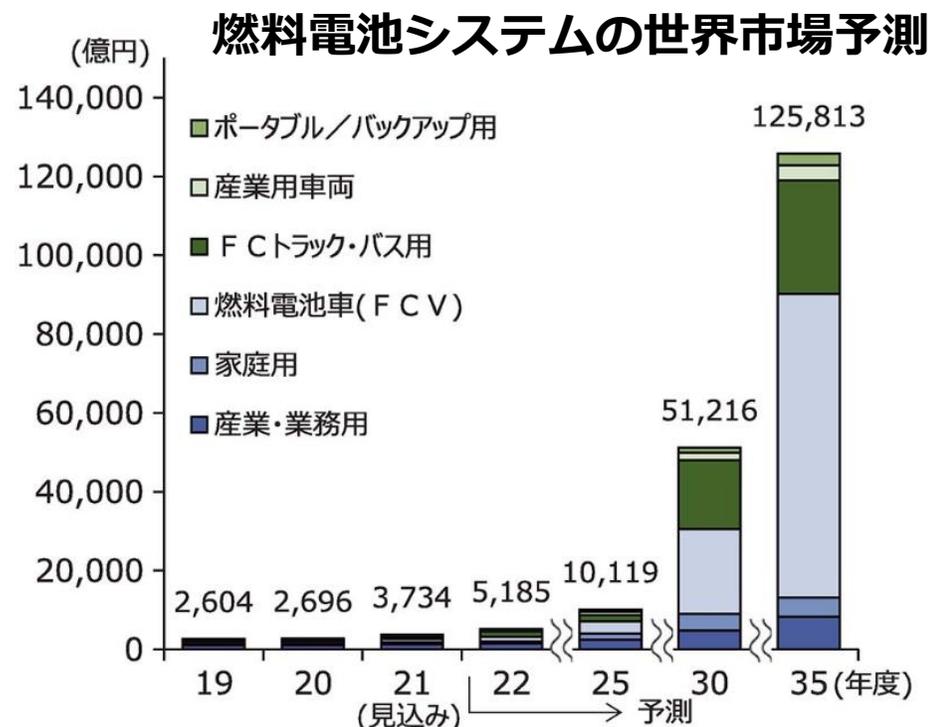
排ガス浄化からCO₂回収・分離へ



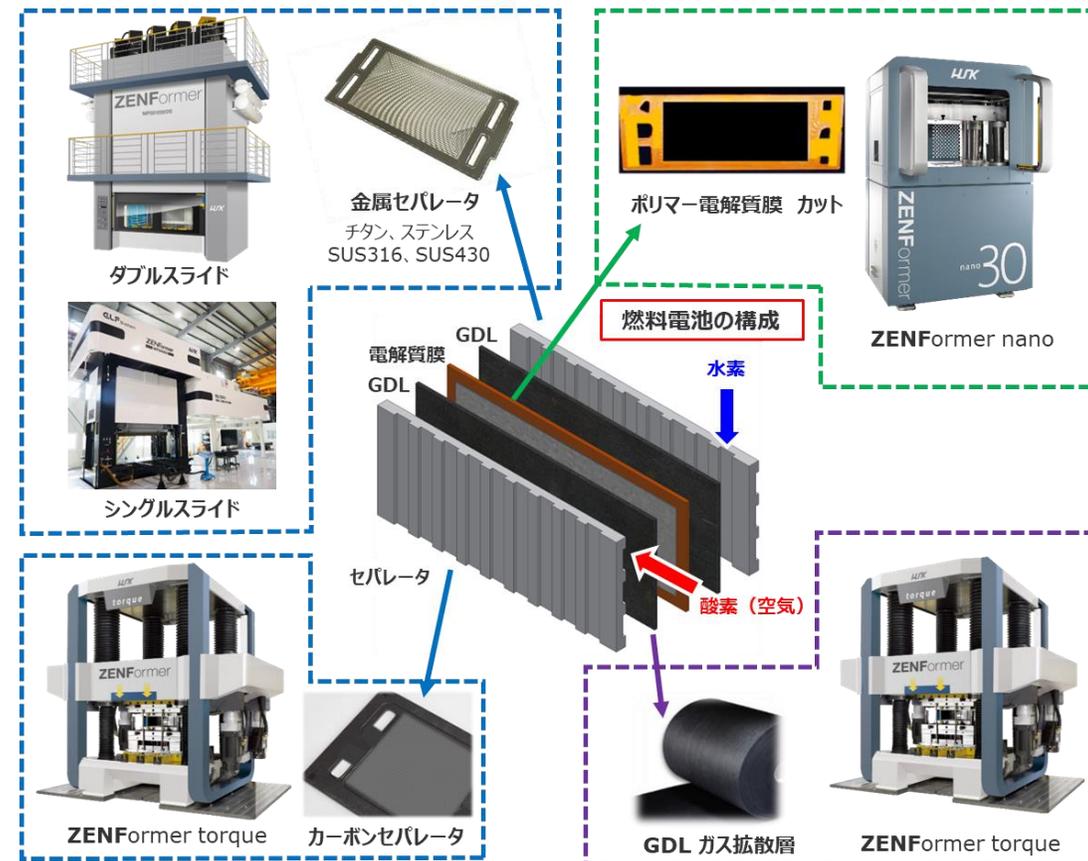
優位性を発展させ新分野で再成長

環境負荷低減に向けた製品開発へ貢献

- 新たな素材に対応した最適な工法の開発
- 遠隔支援サービスを活用し、海外の需要開拓を推進中



燃料電池の社会実装に向け大きく貢献



トピックス：資源循環型社会に向けた活動



3Dプリンター・プレス機による成形



天然廃材ベースのリサイクル素材



社会実装に向けた取組み



プラスチックごみや天然廃材



MF式混合溶融装置

※当事業は放電加工・表面処理セグメントに該当

2024年10月29日～10月31日
会場：幕張メッセ



デジタルサーボプレス
ZENFormer



社会実装に向けた取組み



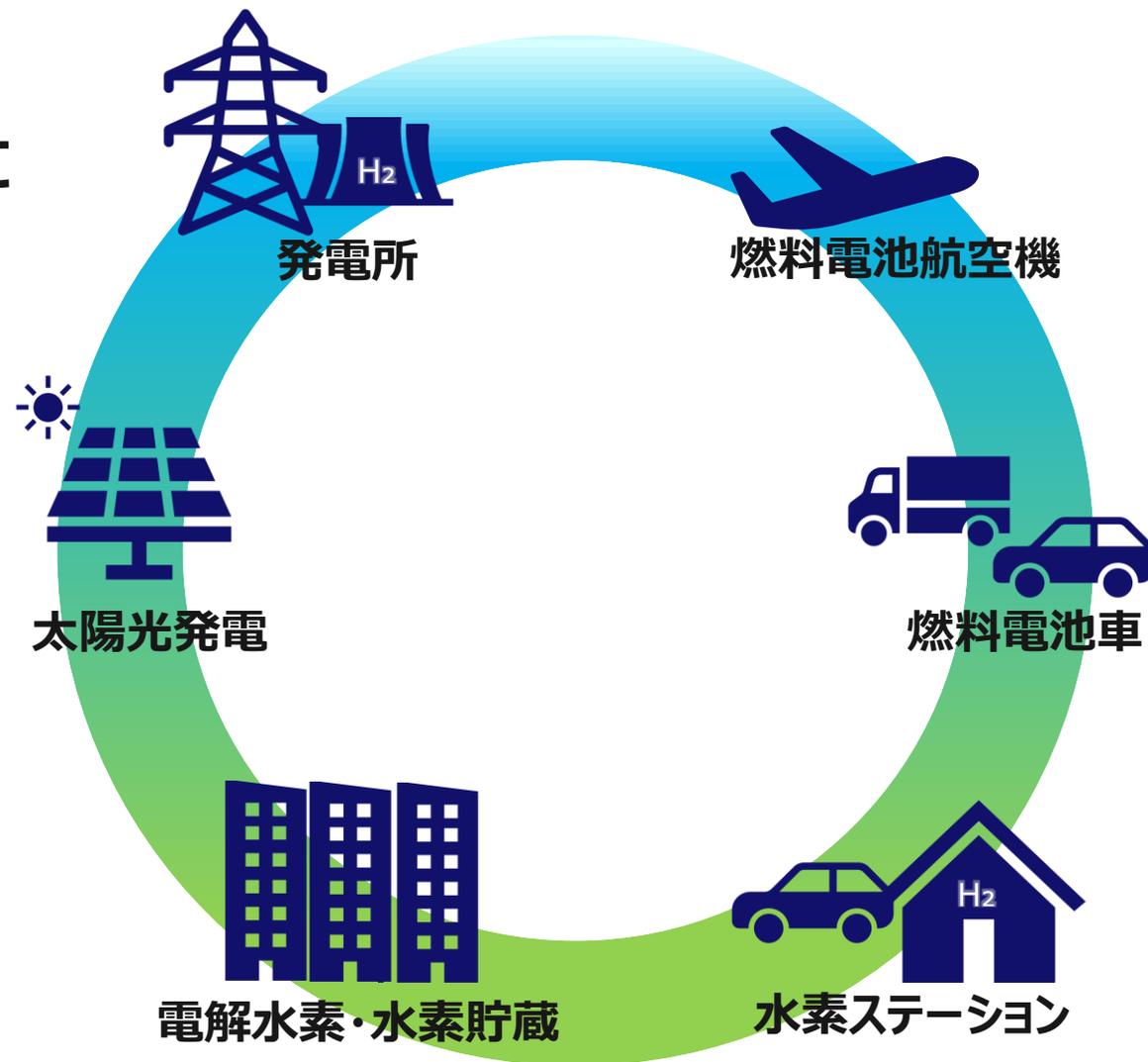
MF式混合溶融装置

社会の動向

製造業の開発製品も環境負荷低減が新テーマに

当社のありたい姿

サステナブル社会に必要な
ものづくり技術を提供し続けて
100年企業となる基盤構築





HSK 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記述があります。
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。